

現代文I

「現代文Ⅰ」の特長と使い方

●本書のねらい

このテキストは、現代文読解の基礎を固めることをねらいとしてつくられています。

「現代文は学習しにくい」「現代文の学習はどうすればよいのだろう」「古文・漢文の学習には時間をかけるけれど、現代文は……」
……と思っている人が多いようです。確かに現代文は学習のポイントがつかみにくい分野ですが、他の教科同様に一定の手順に従って考えていくことで解答にたどりつくことができます、という前提に立ち、このテキストでは、読解のポイントをとらえることに主眼を置いています。

●本書の特色

○このテキストは、「読解の基礎編」と「ジャンル別読解演習編」で構成されています。

○「読解の基礎編」では、読解の要素別のポイントをとらえ、問題演習で定着させます。

○「読解の基礎編」で身につけたことを実際のテストで生かせるように、「ジャンル別読解演習編」で実戦的な力を養います。

○高校生が現代文を学習する上で必読の文章を、読解問題の題材として幅広く採っています。

○各回の「言葉のドリル」で漢字・語句・文法などの知識事項の確認ができます。

●本書の構成と使い方

読解の基礎編

・例文演習……………各回のテーマのポイントを、例文を通してとらえます。

・演習1……………「例文演習」の類題で、読解のポイントが理解できたかどうか確認します。

・演習2……………各回のテーマに重点をおいた長文問題による読解演習です。

ジャンル別読解演習編

ジャンル別に読解問題を集め、読解の総合的な力を養うための演習を積みみます。

・演習1……………基本レベルの演習問題です。弱点が発見されたら、「読解の基礎編」でポイントを確認しておきましょう。

・演習2……………標準レベルの長文読解問題です。

《解答・解説(別冊)》……………解答例とともに、詳しい「解説」がついています。

目次

読解の基礎編

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
韻文の主題をとらえる……	韻文の表現技巧をとらえる……	表現の特色をとらえる……	小説の主題をとらえる……	筆者の主張をとらえる……	筆者の心情をとらえる……	登場人物の性格・心理をとらえる……	事実と意見を区別する……	場面・情景をとらえる……	文章の構成をとらえる……	段落と段落の関係をとりえる……	段落ごとに内容をとりえる……	指示語の指示内容をとりえる……	文と文との接続をとらえる……	語句の意味をとらえる……	
60	56	52	48	44	40	36	32	28	24	20	16	12	8	4	

- 実力判定問題 (1)
- 実力判定問題 (2)

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
韻文 (2)	韻文 (1)	随筆 (4)	随筆 (3)	随筆 (2)	随筆 (1)	小説 (4)	小説 (3)	小説 (2)	小説 (1)	評論 (8)	評論 (7)	評論 (6)	評論 (5)	評論 (4)	評論 (3)	評論 (2)	評論 (1)		
140	136	132	128	124	120	116	112	108	104	100	96	92	88	84	80	76	72	68	64

ジャンル別読解演習編

① 語句の意味をとらえる

例文演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

本文

- 1 — 線部「自我」の意味として最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。
- ア 自信 イ 個人主義 ウ 先入観 エ わがまま オ 意識

【読解のポイント】

カギとなる重要な語句を解釈するには、

- ① まず辞書的な意味を思い浮かべ、そのど
れが当てはまるか、一つずつ吟味する。難
解な漢字の熟語の場合には、その語を構成
している漢字の訓読みから意味を推定する。
- ② ふつうに使われる意味でなく、前後の文
のつながりから特殊な意味に使われている
語句に特に注意する。

- ③ 語句の意味を正確にとらえるため、文中
の他の場所に、その語句の同意語や対意語、
あるいは言い換えなどがないか、必ずさが
してみる。

◇例文演習の着眼点

「自我」には「自己、自分、エゴ」などの
意味があるが、ここでは辞書的な解釈をこえ
て、文脈の中でとらえる。「あらゆるもの
姿をそのありのままに写す」に注意。なお、
文中の対義表現は、「無私無我の心」である。

演習 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

本文

1 — 線①～③の意味として最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

① みてくれ

ア 動作 イ 形態 ウ 性癖 エ 外観

② 廓寥

ア 広く荒れはてたさま イ 暗くおそろしいさま

ウ むなしくものさびしいさま エ しんと静まり返ったさま

③ 冬ざれ

ア ものさびしく感じられる冬の時節

イ 冬にとざされた周辺の様子

ウ そつと冬がしのび寄ってくる時節

エ 冬のように荒れさびたさま

言葉のドリル

〈漢字の書き取り〉

① 次のカタカナを、文意に適した漢字で書け。

1 カクシン

保守系と—系。

問題の—にふれる。

日記文と—文。

雑誌に—する。

経済—のまぎし。

—な態度をとる。

—な場所をさける。

投票の—防止。

—な態度でのぞむ。

意味—なことは。

5 シンチョウ
() ()

4 キケン
() ()

3 キョウコウ
() ()

2 キコウ
() ()

1 カクシン
() ()

演習 2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

1 ……線①～④の漢字の読みを書け。

- ① () () ② () () ③ () () ④ () ()

2 ……線①～④に最も適当な意味をそれぞれ次から選び、その記号を○で囲め。

① 刹那

ア 短い時間

イ 長い時間

ウ 悲しい気持ち

エ 静かな気持ち

② 現身

ア 踊子

イ 長身

ウ ぬげがら

エ この世の人

③ 惑溺

ア 強く抵抗すること

イ 心を奪われること

ウ 悟りの境地に達すること

エ 強く哀願すること

④ 箴言

ア 意見をのべること

イ 厳かなこと

ウ 戒めとなること

エ 他に影響を与えること

3 ……線①「御」、②「まいる」は、敬語の種類でいうとそれぞれ何にあたるか。最も適当なものを次から選び、()に記号で答えよ。

ア 尊敬

イ 謙讓

ウ 丁寧

- ① () () ② () ()

4 ……線①「それは人の心を無限の虚無に誘うような状況であった」ことを回想している部分を、あとの文中から選び、はじめの五文字

と終わりの五文字(句読点は除く)を抜き出して書け。

○はじめ……

○終わり……

5 ……線②「みられない」について、次の問いに答えよ。

(1) 「られ」の意味を次から選び、その記号を○で囲め。

ア 受身

イ 尊敬

ウ 可能

エ 自発

オ 使役

(2) 「ない」と同じものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 彼女はいない。

イ 私の部屋はきたない。

ウ 学校は近くない。

エ それはみつともない。

6 ……線Aに入れるのに最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア だがきょうの私は急いでいた

イ だがきょうの私は過去から脱却しようとしていた

ウ だがきょうの私は信念を求めていた

エ だがきょうの私は怠けものであった

7 ……線B～Dに入れるのに最も適当なものを次から選び、()に記号で答えよ。

ア 求めよさらば与えられむ

イ はるかな大地をめぎせ

ウ すべて在るものはみな無なり

エ 我らの身を現在の歓楽に委ねむ

オ 正と邪との間に戦慄せよ

- B () () C () () D () ()

本文

1 線①「それ」は、何を指しているか。

2 線②「その」は、何を指しているか。

3 線③「その」は、何を指しているか。

4 線④「そこ」は、何を指しているか。

5 線⑤・⑥の「それ」は、それぞれ何を指しているか。

⑥

⑤

6 これからの教育に必要な基礎・基本とは何か。次から適するものを選び、記号を○で囲め。

ア 教科別にくわしく分類された基礎・基本

イ 教科書に示すことのできない基礎・基本

ウ 子どもの個性的、個別の活動をふまえた基礎・基本

エ 不特定多数の子どもに通じる基礎・基本

9 ① 身代わりになる。
② 身代金を要求する。
③ 身代をつぶす。

10 ① なかなかの見物だよ。
② 火花を見物する。

② 次の傍線部のカタカナを漢字で書け。

1 新入社員のカンゲイ会。

2 彼はセンリユウが得意だ。

3 手紙をハイタツする。

4 刑をシツコウする。

5 仕事にセンネンする。

6 ハクジョウな男だ。

〔同義語〕

③ 次の1～8の熟語と似た意味の熟語を、

下段のア～クから選べ。

1 安価

2 一般

3 手紙

4 了解

5 母国

6 失神

7 用意

8 病人

ア 納得

イ 患者

ウ 低廉

エ 気絶

オ 書簡

カ 準備

キ 普通

ク 故国

演習 2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

1
 ①④のア・イのうちで、正しいほうはどちらか。()
 に記号で答えよ。

2
 a、dには、ア母親、イ先生のうち、どちらが当てはまるか。
 ()に記号で答えよ。
 ③ () () ① () ()
 ④ () () ② () ()

a () () b () () c () ()
 d () ()

3
 A・Bに入れるのに最も適当な文を次から選び、()に記号で答えよ。

ア これらは、言葉が具体的なものから、抽象的なものの表現へと、高められて使われた例である。

イ これなどは、新しい単語が誕生させられた例といえる。

ウ これは、日本人が新しく言葉を別の意味に使い直したものの一例と言えよう。

A () () B () ()

4
 線部「英語・ドイツ語の社会に『申す』と『言う』にあたる観念の区別がない」のはなぜか。なるべく文章中の言葉を用いて、簡潔に説明せよ。

5
 e・fに入れるのに最も適当な語句を次から選び、()に記号で答えよ。

ア 疑問の形 イ 強調の形

ウ 肯定の形 エ 打ち消しの形

オ 感嘆の形

e () () f () ()

本文

1 線①「深い嘆息をもらした」からうかがえる「私」の気持ちを説明せよ。

2 □に入れるのに最も適当な接続詞を次から選び、その記号を○で囲め。

- ア そして イ しかし ウ それゆえ エ だから

3 線②「懐手をして永いあいだ立ちどまつたりする」のは、どういうことの表れなのか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

- ア 手もちぶさたでつい手を組むこと イ もう何もしたくないと思ってしまうこと
 ウ 自分のことをつくづく考えること エ いろいろと心の中で勘定してみること

2 次の熟語の傍線部の読みと同じものを選び、その記号を○で囲め。

	10		9		8		
	②	①	②	①	③	②	①
	供物	供出	遺言	遺族	相殺	殺生	殺人
	(((((((
)))))))

1 行脚

- ア 行幸 イ 一行 ウ 行人
 エ 行宮 オ 行事

2 礼賛

- ア 礼楽 イ 礼記 ウ 礼儀
 エ 礼法 オ 礼節

3 解毒

- ア 読解 イ 解釈 ウ 解除
 エ 解熱 オ 解決

4 化粧

- ア 化学 イ 化身 ウ 化石
 エ 化合 オ 変化

5 会釈

- ア 法会 イ 会合 ウ 会議
 エ 密会 オ 茶会

演習 2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

⑬

随筆

(1)

演習 1

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

〔作家と作品〕

① 次の中から、樋口一葉の作品だけで構成されているものを選び、記号を○で囲め。

ア たけくらべ 十三夜

それから ころも

イ にごりえ 十三夜

雁が 山椒さんしょう大夫だゆう

ウ 大つごもり にごりえ

心の闇くろ 多情多恨

エ 大つごもり たけくらべ

わかれ道 うもれ木

② 次の中から森鷗外の作品を二つ選んで、記号を○で囲め。

ア 道草 イ 阿部一族

ウ 舞姫 エ 暗夜行路

オ 不如帰ほこき カ 高野聖こうやせい

キ 武蔵野むさしの

ク ふらんす物語

演習 2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

- 1 ……線①～⑤のカタカナを漢字で書け。
- ④ ①
() ()
() ()
⑤ ②
() ()
() ()
③
() ()
() ()

本文

2 〰〰線①～④の漢字の読みを書け。

① () () ② () ()

③ () () ④ () ()

3 □ A～Dに入れるのに最も適当なものを次から選び、()に記号で答えよ。

ア 体験 イ 信仰 ウ 文明開化 エ 模倣

オ 意味 カ 愛着 キ 要望

A () () B () () C () ()

D () ()

4 □ A～Eに入れるのに最も適当なものを次から選び、()に記号で答えよ。

ア すくなくとも イ ほとんど ウ よそよそしい

エ かわりに オ しかし カ おそろしい

キ やはり ク やがて

A () () B () () C () ()

D () () E () ()

5 —線①～④の意味として適当なものをそれぞれア～エから選び、その記号を○で囲め。

① 加持祈禱

ア 真言で仏の加護を祈り病氣や災難を除くこと。

イ 仏事の際に供物を捧げて死者の冥福を祈ること。

ウ 仏門に入り悟道にはげむこと。

エ 迷信や邪教にとらわれること。

② 起死回生

ア 絶望の危機を救つてもとの状態にすること。

イ 存在をあらためて深く印象づけること。

ウ 死にかかった人を生き返らせること。

エ やりかけたことをやりぬくこと。

③ 津々浦々

ア 数多くの入江となっている海べ。

イ 全国いたるところ。

ウ 全国の海に沿った地。

エ たくさんの人が集まった土地。

④ 山水

ア 山と川をもつ風景。

イ 山と川に代表される自然の風景。

ウ 築山と池とがある庭園。

エ わが国の最も代表的な山と川。

6 この文章の論旨として適当なものを次から二つ選び、その記号を○で囲め。

ア 山を愛することは、自然の環境や資源を保護するという現代の論理に最適である。

イ 山は、人間が抱いていた自然との一体感というものをあらためて考えさせる。

ウ 山を宗教的にみたのは過去であり、登山や自然観察の対象となつてようやく人間的となった。

エ 山への共感自然が生きていることにあり、社会の喧騒や汚濁から逃れる安らぎの場としてふさわしい。

オ 山はその自然が人間の精神文化の充実にかわつたとの視点から、真理への愛や超越的なものとのつながりを見いだす場となる。

⑰

韻文 (1)

演習 1

次の詩を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

言葉のドリル

〈作者名〉

① 次の作品の作者名にまちがいがある。まちがっている漢字を抜き出し、正しい漢字に改めよ。

- | | | | | | |
|---|-----------------|-------|-----|---|-----|
| 1 | 「 <u>浜江</u> 抽斎」 | 森 欧外 | () | ↓ | () |
| 2 | 「羅生門」 | 芥川龍之助 | () | ↓ | () |
| 3 | 「 <u>暗夜</u> 行路」 | 志賀直也 | () | ↓ | () |
| 4 | 「多情 <u>仏心</u> 」 | 里見淳 | () | ↓ | () |
| 5 | 「 <u>冬</u> の蠅」 | 梶井元次郎 | () | ↓ | () |
| 6 | 「蒼氓」 | 石川達造 | () | ↓ | () |
| 7 | 「 <u>暗い</u> 絵」 | 野間浩 | () | ↓ | () |
| 8 | 「 <u>潮騒</u> 」 | 三島由起夫 | () | ↓ | () |

〈敬語〉

② 次の文中の傍線部を1は尊敬の敬語に、

2は謙讓の敬語に書きかえよ。

1 「おかあさん、中村先生が、参観日には出席するようにと言っていました」

() ()

本文

1 この詩における「乳母車」は、何を象徴しているか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 母の愛情 イ はかない命

ウ 明るい未来 エ 過去への感傷

オ 孤独な人生 カ 人生という長い道のり

2 この詩における作者の感動の中心は何か。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 郷愁 イ 幼児

ウ 母親 エ 風景

オ 季節感 カ 終末感

3 この詩の作風について、最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 説明的 イ 象徴的

ウ 絵画的 エ 理知的

オ 感傷的 カ 叙事的

4 この詩の季節はいつか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 早春 イ 晩春

ウ 初夏 エ 晩夏

オ 晩秋 カ 厳冬

5 この詩は何を訴えようとしているか。最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア 爽やかで新鮮な季節感 イ はかない人生に対する失望感

ウ 寒々とした時代背景 エ 哀愁をたたえた静かな思慕

オ 幻想的な虚構の世界 カ 変転きわまりない無常感

2 「中村先生、参観日には、母が出席すると言っておりました」()

〈動詞のはたらき〉

③ 次の傍線部「いる」と同じはたらきをしている動詞を選び、記号を○で囲め。
竹は日本人の生活にとけこんでいる。

ア おそれている。

イ 費用がいる。

ウ 人をいる眼光。

エ 病気が進んでいる。

〈同音異義語〉

④ 次の傍線部のカタカナを漢字で書け。

① コウセイ畏るべしだ。()

② コウセイ大臣になる。()

③ コウセイな判定だ。()

④ 少年をコウセイさせる。()

⑤ 本のコウセイをする。()

⑥ コウセイに転じる。()

① 市内をコウシンする。()

② コウシンを指導する。()

③ 記録をコウシンする。()

④ 無線でコウシンする。()

2

1

演習 2

次の詩と文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

1 ……線①～⑤のカタカナを漢字で書け。

- ① () () () () ()
- ② () () () () ()
- ③ () () () () ()
- ④ () () () () ()
- ⑤ () () () () ()

2 —線①「分解された人間」とは、どういう意味か。簡潔に説明せよ。

3 —線②「熱い物理学の雨の歌」には、作者のどんな意図が表れているか。次の説明のうち適当なものを選び、その記号を○で囲め。

- ア 死の灰の雨という不幸な現象を科学的に表現しようとした。
- イ 外人批評家や国内の批評家の批判を防ぐため、詩的な、しゃれた表現をしようとした。

ウ 原子力への不安と恐怖を感覚的にするべく表現しようとした。

エ 現代の非合理の原因が、科学や技術の進歩にあることを暗示しようとした。

オ 原子力を文明の輝かしい光明と考えている人を批判しようとした。

4 詩の中の□に入れるのに最も適当な言葉を次から選び、その記号を○で囲め。

- ア アヤメの花
- イ 女
- ウ 暗い雨
- エ 幻影
- オ 死の灰
- カ 教会

5 次の文を文章中に挿入するとすれば、(A)～(D)の箇所のどこが最も適当と思われるか。記号で答えよ。

詩人が一様にこの事件を作品のテーマとして取り上げたこともまた極めて自然であると言わなければなりません。

6 —線③「なまな素材主義」とは、どういうことか。それに相当する表現を文章中から抜き出して書け。

7 —線④「烏合的」の意味として最も適当なものを次から選び、その記号を○で囲め。

ア からすどうしが鳴きあっているように、めいめいが勝手に自分を主張するような

イ からの集まりのように、規律も統一もないような

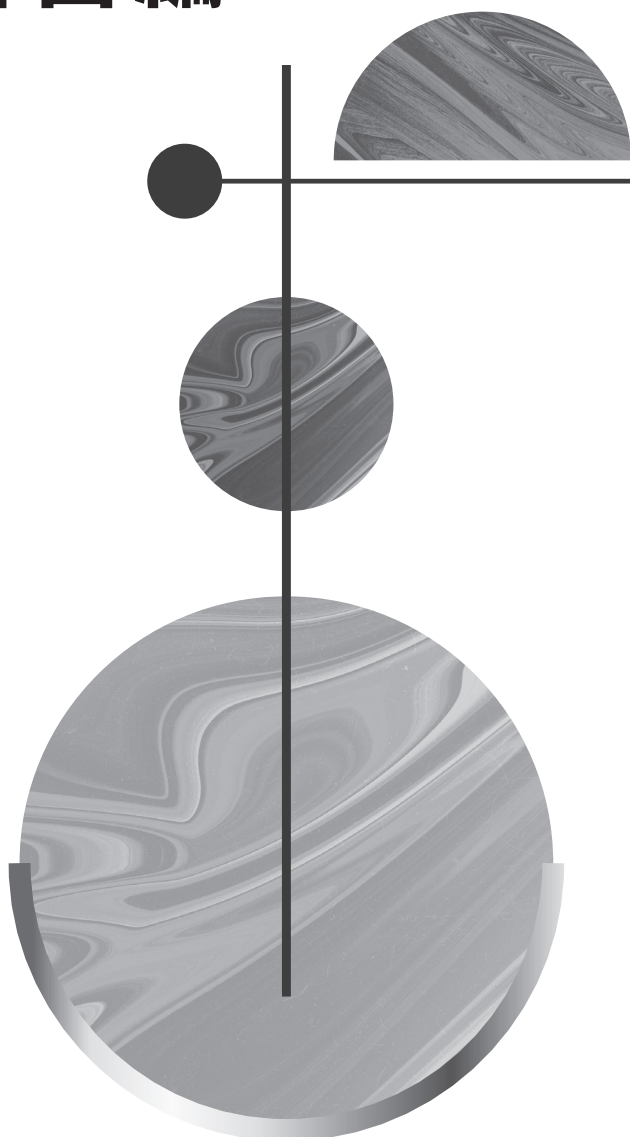
ウ からのすがみなまっ黒なように、みんな同じ考えにかたままってしまっているような

エ からのすが黒一色なように、なんの個性も特徴もないような

高校ゼミ
Essence

現代文 I

解答編



◆読解の基礎編

① 語句の意味をとらえる

(P457)

例文演習

1ウ

演習1

1 ①エ ②ウ ③ア

解説

言葉のドリル

① 1革新・核心 2紀行・寄稿 3恐慌・強硬 4危険・棄

権 5慎重・深長

演習2

1 ①へいぜい ②さいげん ③たいだ ④むきゆう 2 ①ア ②エ
③イ ④ウ 3 ①ウ ②イ 4 ○はじめ…夕暮の菜の ○終わり…と頹唐と
を 5 (1)ウ (2)ア 6 エ 7 Bオ Cエ Dウ

解説

解説

前講座

前講座

◇ジャンル別読解演習編

① 評論 (1)

(P 64 ~ 67)

演習1

1 学校教育で総ての子どもに修得させるべき基礎・基本。 2 教科別に詳しく分類された基礎・基本と称される知識・技能の総てを、総ての子どもに教えるということ。 3 ペーパーテストの数値。 4 大人の立場、各教科の立場、教師の立場において考えられ、整えられたもの。 5 ⑤特定の子どもが、一つの知識・概念を主体的に修得するプロセス。 ⑥教育における別な意味の、子どもの立場の基礎・基本。 6 ウ

解説

言葉のドリル

① ①おとな ②たいじん ③たい
か ④たいせい ⑤ひと ⑥た
にん ⑦ひょうじょう ⑧へん
げん ⑨しんがい ⑩みもの ②け
んぶつ ①歓迎 ②川柳 ③配達 ④執行 ⑤専念 ⑥薄情 ③1ウ 2
キ ③オ ④ア ⑤ク ⑥エ ⑦カ ⑧イ

演習2

① ①ア ②ア ③イ ④ア ②aア bイ cア dイ ③Aウ
Bア ④社会の構造が、絶えず上下関係に深い注意を払う必要がないから。
5 e エ f ウ

次講座

解説

次講座

前講座

前講座

⑨ 小説 (1)

演習 1

1 健康で朗らかな学生たちに比べ、自分がいかにも哀れで情けなく思えてきた。

2 ウ

3 ウ

(P 96 ~ 99)

解説

解説

言葉のドリル

- ① ①あくとう ②おかん 2 ①えいえん ②くおん 3 ①
がいらい ②げか 4 ①げんしゆく ②そうごん 5 ①こうどう ②ぎょう
れつ ③あんどん 6 ①じしゃく ②こうせき ③こくだか 7 ①はんたい
②いったん ③むほん 8 ①さつじん ②せつしょう ③そうさい 9 ①い
ぞく ②ゆいごん 10 ①きょうしゅつ ②くもつ ③そうさい 9 ①い
イ 5 ア

演習2

- 1 ①ア ②イ ③イ ④イ ⑤ア 2 だって……わなひ 3 死ぬ時
4 そのからだを借りて行なわれた戦い 5 ア 6 エ 7 ウ

解説

解説

次講座

前講座

前講座

演習 1

⑬ 随筆 (1)

1 A
エ

B
ウ

C
ア

2 A
ア

B
エ

3
オ

解説

(P
112
S
115)

解説

言葉のドリル

- ①エ ②イ・ウ ③1によろご・A 2そくたい・D 3た
いのや・D 4ずいじん・A 5えじ・A 6はじとみ・D 7かたびら・
D 8ずきよう・B 9こうい・A 10すのこ・D 11かりぎぬ・D 12り
んね・B 13らいごう・B 14ひたたれ・D 15だいじょうえ・C 16てん
じょうびと・A (「でんじょうびと」はダメ) 17きちょう・D 18くり・
D 19けいし・A 20かんだちめ(べ)・A

演習2

- 1 ①粹 ②征服 ③水利 ④分有 ⑤系譜 2 ①けいけん ②しろ
しょうぞく ③しゅげんどう ④すいじやく 3 Aウ Bイ Cエ Dオ
4 Aア Bウ Cエ Dイ Eキ 5 ①ア ②ウ ③イ ④イ 6 イ・オ

解説

解説

次講座

⑰ 韻文 (1)

前講座

(P.128 ~ 131)

解説

言葉のドリル

① 1 欧 ↓ 鷗 2 助 ↓ 介 3 也 ↓ 哉 4 淳 ↓ 醇 5 元 ↓ 基 6

造 ↓ 三 7 浩 ↓ 宏 8 起 ↓ 紀 ② 1 おっしやって 2 申して ③ エ ④ 1 ①

後生 ② 厚生 ③ 公正 ④ 更生 ⑤ 校正 ⑥ 攻勢 2 ① 行進 ② 後進 ③ 更

新 ④ 交信

演習2

① 警告 ② 露頭 ③ 前兆 ④ 名譽 ⑤ 享受 2 技術の進歩と精神

の進歩とのアンバランスゆえに、本当の人間らしさを喪失した人間。 3 ウ

4 エ 5 (B) 6 眼の前に起こった現象を、単なる現象として取り上げる

7 イ

解説

次講座

解説

次講座